

■**小山田与清** 国学者。平田篤胤・伴信友と並ぶ国学三大家と称され、後期水戸学にも影響。江戸第一の蔵書家で書庫開放。

おやまだともきよ
蘭学階梯・・・1783＝

武蔵国多摩郡上小山田村(東京都町田市)に生まれる。先祖は葛原親王に発し、小山田氏・田中氏を称する。実父田中本孝は郷土で添水園と号し和歌を好み、「添水塵芥」などの著作を遺す。生まれて間もなく母が没したため継母に育てられる。

田沼意次失脚1786＝3歳：

ワクサン来日・1792＝9歳：

松平定信引退1793＝10歳：

初め順徳という浪人に就いて素読・手習を受け、

伊能測量始・1800＝17歳：この頃、**江戸に出て古屋昔陽(秋山玉山門)に就いて漢学を学ぶ。**

本居宣長没・1801＝18歳：**村田春海に入門し、国学を学びその才を発する。**

アリカ船来航始1803＝20歳：見沼川の運漕主事高田好受の養子となり、その長女千勢子を妻とし、神田花房町の通船屋敷に住む。

以後与清の好学は高田氏の富に助けられ、

・・・・・・1810＝27歳：

高田屋拿捕・1812＝29歳：***「俳諧歌論」刊。**
蒐書に努め蔵書5万巻を誇り、当時江戸随一といわれるほどで、

黒住教・・・1814＝31歳：

・・・・・・1815＝32歳：

***書籍を所蔵のために書庫を作り、{擁書楼}と名づけて国学者の閲覧に供した。「擁書楼日記」始め、**
一日ごとに好学の士が集まり著名となる。

杉田玄白没・1817＝34歳：

水野忠成老中1818＝35歳：

群書類従刊・1819＝36歳：

「知非斎日記」始め、
「楽章類語鈔」刊。有栖川宮第6代織仁親王の第8王子で光格天皇の養子・將軍家斉の猶子となった華頂宮尊超
入道親王に仕える。

・・・・・・1820＝37歳：

英船浦賀来航1822＝39歳：

「鹿島日記」成る。

シボウ外鳴滝塾1824＝41歳：

異国船打払令1825＝42歳：

家督を孫清常に譲り、小山田姓に復する。

日本外史・・・1827＝44歳：

シボウ外事件・1828＝45歳：

考証学を得意とし、夥しい著作を公にしたが、孫引きでない博引傍証ぶりには定評があった。平田篤胤・伴信友とともに当時国学三大家をもって目せられるに至る。

富嶽三十六景1831＝48歳：

***水戸藩主徳川斉昭の懇望により、その家臣富岡利久・久米博高の入門を許すとともに、彰考館に出仕し、**

「八洲文藻」「扶葉拾葉集」などの編集にあたり、古典・考証に強い国学者の力量を発揮、

大塩平八郎乱1837＝54歳：

阿部正弘首座1845＝62歳：この頃、「松屋筆記」成る。**病に倒れると、**

ビートル来航・1846＝63歳：

・・・・・・1847＝64歳：

***蔵書2万巻を水戸家に献納することを申し出、「小山田献納本目録」を作成し献じ、**

「松屋棟梁集」成る。自宅において没した。

ほかに「更級日記標注」「三代実録三才鉛」「色葉集字類編」「徒然草残月抄」「相馬日記」「倭学戴恩日記」「松屋叢考」「松屋文集」「松屋文後集」「松屋外集」など多数。